

石川の学童保育

No.400

石川学童保育
連絡協議会

ご入学・ご進級おめでとうございます

新一年生を迎え、各学童保育では賑やかな日々のごとでしょう。保護者の皆さまは、子どもたちの成長ぶりを感じていることと思います。指導員の方と情報共有し、共に子育てを楽しんでいきましょう。

「覧いただいている「石川の学童保育」は、石川県学童保育連絡協議会（以下・県連協）の機関紙です。この度四百号となりましたので、特集となっています。



県連協・顧問 荒木田 成

手元を探して見つけ出した機関紙は七号（一九八四年十二月発行）です。

珍しく四版八ページ建て、

現在とは異なり全て事務局長

（当時の上田純子さん）の手

書きである。これ以前がない

か膨大な資料を繰って探して

みたが今回は見つからなかつ

た。ちなみに一九八四年は私

が飯田さんから引き継ぎ、会

長に就任した年である。

届いた新しい機関誌三九九

号は「四裏表、ワードプロセ

ッサー作り、時代が大きく変わつたこ

とが思われる。が機関誌づくりが大変

なことに今も昔も変わりはない、この

作業を四十年近く担ってきた事務局

河内さんの苦労がよくわかります。ご

祝 400号

私も学童保育にかかわって四十余年、学童の表舞台からは引退しましたが思いは変わっていないつもりです。題字を見ると若くして逝った我が弟の手のものが今も使われていることに感慨を覚えます。

一九八四年当時県内全体で三十三か所だった学童保育が現在三百を超すまでに増えたこと、貧しい政策ながら国が学童を認めざるを得ない状況まで進め、児童福祉法に位置づくなども、私たちが長く粘り強く進めてきた運動の成果であり素晴らしいことです。社会の動き、国の方針、各地の状況、運動の進め方などをみんなに、共通の要求や要望、意見としてまとめていく材料としても大切な機関紙です。今後共、運動の推進者としての役割を果たし、会員のよき指針としての活躍と更なる継続を期待しています。継続は力。

県連協・顧問の飯田さんは児童文学者でもあります。高齢となり断筆されたとのこと、300号にお寄せ頂いた文章の一部を載せさせて頂きました。



機関紙 300号に寄せて「学童保育を学校教育の中へ」

県連協・顧問 飯田慈子

「学童保育」の文字が新聞紙上にも見られるようになりました。半世紀を経て、ようやく学童保育は日の目をみようとしています。

私が最初の子をおなかに金沢へやってきたのは、五十年前のことです。娘が今年五十歳になりましたので、間違いありません。高校生の時から、女性も仕事を持って生きるべきだと思ってきましたので、当然、保育所に預けて働き続けるつもりでした。ところが、当時乳児を預かる保育所は、三か所しかありませんでした。さいわい、金沢大学の近くにあゆみ保育園があり、仕事を続けることができました。

当時から、次の難関は学童保育だと覚悟していました。その間に、ヨーロッパへ行く機会があり、小学校の中で学童保育がおこなわれているのを目のあたりにし目の覚める思いでした。帰国してすぐ長女が入学しましたが、ひかり教育園しかなく、キリスト教の礼拝を嫌がるので思いきって友人と始めたのが「さざんかくらぶ」です。その後、「たんぽぽくらぶ」「風の子くらぶ」の運営に関わりました。クラブをつなぐ連協も、金沢、石川と広がりました。

私の提唱する学童保育を学校教育の中に位置づけるという主張は、どこでも認められず残念に思っています。でも、いつかヨーロッパ並みの制度ができることを信じています。

県連協・事務局長 河内久美

この度、機関紙「石川の学童保育」は四百号を迎えます。今日まで会の行事活動や情報の発信と交流の場として、継続して発行し続けてこられたのは、多くの方々のご協力・ご尽力いただいた賜物です。

私が県連協の半専従として運動に加わったのは四十年前です。当時県連協の事務所はなく、連絡先は我が家の電話、我が子は小学生だったので夜の会議に出かけることが多く苦労しました。

県連協は当初、「必要な人がいれば学童保育をつくる」を合言葉に学童保育をつくる取り組みをおこなっていました。

今では児童福祉法などには「子どもの権利条約」が基本に位置づけられています。

私たちの先輩たちはずっと前から、学童保育に通う子どもたちの成長発達を願い、より豊かな学童保育生活のために努力し、もし通り「子どもの権利保障」を中心に活動してきました。

これからの子どもたちのため、学童保育を支える中心的役割を果たす取り組みが大切です。情報があふれる現代で、話し合い、合意し、協力し合いながら活動を進めていくことが必要だと思います。子育てが楽しいと思え、仲間と共有できる関係を築ける貴重な団体だと感じています。



学童保育の思い出

*第2たちのクラブ

柴田 大夢

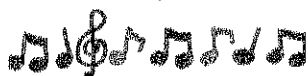
ぼくはこの学童に
5年間通い友だちが

たくさんできたり学習を1人でできるようになりました。1年生でははじめて学童に行ってきたけど知っている人やまわりからやさしくされてすぐになじむことができました。2年生では新しく1年生が入ってきて1年生の時のようにやさしくしてあげることができました。3年生では、新しく学童ができて第1.第2第3にわかれすこし人が少なくなったけどその分1.年生や2年生がいっぱい入ってきたのでわかれても楽しくすごすことができました。4年生では、1年生として弟が入ってきました。でもその年に入ってきた人がすくなくったです。4年生はしいくやいいん会、3年生の時まで火曜日だけだった6限目がほとんど毎日になったので帰るのがおそくなってあまり遊ぶことができなくなりました。ぼくはごの5年間楽しかったです。



*もりもりクラブ 坂口 日向子

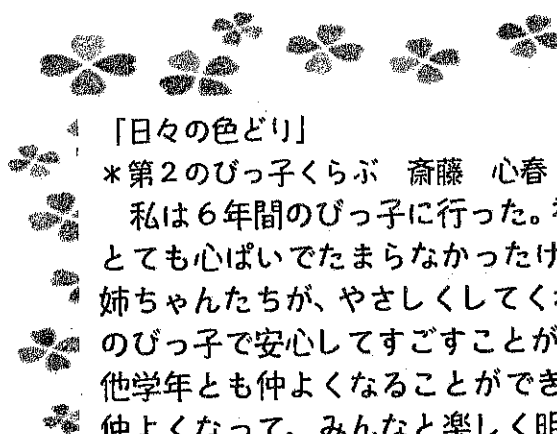
6年間があっという間に過ぎていてびっくりです。学童の行事で楽しかったことは、高学年旅行です。友だちとキンシュージに泊まりました。4年生の時は夜寝る前のお菓子パーティー、5年の時は怖い話をがんちゃんとして楽しかったです。学童の遊びで好きだったのは、晴れの日で外でブルーシートをひいて友だちと話をしたことでした。その途中にがんちゃんに来て、大根抜きや鬼ごっこをすることも好きでした。1、2年の頃に一輪車にはまっていた、すぐ乗れるようになりました。今もまだまだ余裕です。学童を卒業して、時間がたつのはものすごく早いと思います。1年間しかいないように感じます。騒がしい毎日だったけどたのしかったです。



「すがはらクラブ」文集より

*第3すがはらクラブ 新井 世成

ぼくがこの六年間で一番心にのこったのはそつぎょうりょこうです。わけは、電車に乗ってトランプをしたこととはじめて行ったユニバでシールをもらったことと、はじめてジェットコースターにのったことです。とてもこわかったしまとあてでぜんぶはずれたことです。二番目はしどういんにしゅくだいやおんどくをきいてもらったことです。わけは人のためになんかをするのはすごいと思ったしいろいろなけいかくをかかんがえるからです。



「日々の色どり」

*第2のびっ子くらぶ 斎藤 心春

私は6年間のびっ子に行った。初めのころは、とても心ばいでたまらなかったけど、年上のお姉ちゃんたちが、やさしくしてくれたおかげで、のびっ子で安心してすごすことができた。今は、他学年とも仲よくなることができた。他学年と仲よくなって、みんなと楽しく明るくすごすことができた。のびっ子2のみんなのおかげで、日々の生活に色どりをくわえることができた。私は本当にのびっ子2ですごしてよかったと思う。

指導員、のびっ子のみんな、そして家族、本当にありがとう。

